

人口減少社会の到来と技術革新

顧問（前専務取締役） 平野 昭一郎



日本は、戦後、人口が増加する中、右肩上がり的高度経済成長や継続的なインフレーション

を当然のこととしてきたが、その後、オイルショックを契機としてのマイナス成長や、バブル崩壊を経てのデフレ経済を経験したものの、なお人口は、伸びは鈍化したものの、一貫して増加を続けてきた。

その人口動向も、少子高齢化が進行する中で、2007年から日本の総人口が減少するという過程に入り、いよいよ日本は「人口減少社会」を迎えることとなる。

約百年前の1912年に5千万人を超えたわが国の人口は、その後急速な増加を続け、1967年に1億人を超え、2000年の国勢調査では約1億27百万人となったが、その人口もこれまでの傾向が逆転し、いよいよ減少過程に入り、現在の将来人口推計では、2050年には日本の人口は、約1億人になると見込まれている。

総人口の減少、それをうけて生産年齢人口が減少する中で、経済

成長を実現していくことができるのか、懸念する声が聞かれる。

労働力は、確かに経済成長の供給力要因の一つだから、一人あたりの生産性に変化がなければ、人口が減少し、労働力人口が減れば、一国のGDPは縮小することとなる。

しかしながら人口が減少するのだから、マクロの経済力が縮小するのは仕方がないと、単純にみることはできないだろう。

したがって、その労働力減少を抑える工夫として、現在労働力人口比率が60～70%の女性労働を更に活用していくことや、外国人労働力の本格導入が進んでいくのではないかと考えられる。

あわせて、高齢者労働力の活用が、技術の継承という観点からも課題となっており、既に来年度からは60歳以降の雇用継続が企業に義務付けられるようになっている。このように労働力確保の工夫はいろいろと考えられていくこととなる。

一方、経済の供給力要因には、この労働の他に、資本と技術進歩が挙げられる。経済成長は資本投下と労働力と技術進歩の合算の結果となるというのが経済学の教訓である。労働力の伸長にこれまでのような大き

な期待がかけにくいとすれば、残された資本と技術進歩に期待がかかるのは当然であろう。

日本経済もこれまで、60年代の重化学工業、70年代以降の電気電子産業、自動車産業や精密機械工業における技術革新や設備投資で大きく成長してきた。その意味で、これからも資本投下や技術進歩が大きな役割を果たすのは想像に難くない。各産業・各分野で技術革新に力が注がれている所以である。

新素材、バイオにナノテクノロジー等々、期待される技術は大きくて広い。その技術開発を支援する産業の一つとして我々分析評価業の活躍の場はますます広がっていくと考えられるが、顧客の皆さんの期待に応えうるには、我々も一段とその技術に磨きをかけていかなければならない。

基盤となる分析技術や分野の評価技術を一段と磨き、各産業の技術進歩の一翼を支援しうる努力をしていかねばならない。

弊社の経営理念にある「すべては分析に始まる」を自負し、謙虚に努力して顧客産業の技術の発展にいささかなりとも寄与していきたいものである。



千葉事業所と愛媛事業所は、ISO 17025に基づく認定事業所で、環境分野や化学工業製品分野などにおける特定項目の認定を受けております。
千葉事業所の認定番号：JCLA1
愛媛事業所の認定番号：JCLA5

当社事業所はISO-9001およびISO14001の審査登録も受けています。

千葉・筑波事業所：JQA-1105 / OIER-171
大阪・岡山事業所：JQA-1814
愛媛事業所：JCQA-0253 / JCQA-E-0465
大分事業所：JQA-QM3707 / JQA-EM2093
ファーマ事業所：医薬品GLP
大阪事業所：農業GLP

編 集 後 記

SCAS NEWS 2005- 号をお届けいたします。

今回は、菌・遺伝子・微生物をテーマにして、杏林大学名誉教授・(株)富士バイオメディックス取締役会長の遠藤 仁先生に「生体情報の源、尿分析の意義」と題して巻頭言を賜り、示唆に富むご提言をいただきました。また岐阜大学大学院医科学研究科 病原体制御学分野 教授の江崎 孝行先生、大橋 清文先生には「環境中の細菌相の網

羅的解析を目指した系統アレイと病原体アレイ」について最近の網羅的遺伝子検査の紹介をいただきました。その他、関連テーマの技術報告やSCAS NOW、トピックス、法律ウォッチャー等の情報も提供いたしました。

今後も、お客様の期待に応えられるよう弊社の最新分析技術情報を提供してまいりたいと思っていますので、ご愛読のほどよろしくお願ひ申し上げます。 M.S

編集・発行 株式会社住化分析センター 発行日 2005. 8.29 2005- (通巻22号)
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 4-6-17 TEL06-6202-1807 FAX06-6202-0116
ホームページ <http://www.scas.co.jp> E-mail: webmaster@scas.co.jp

はインシュタインの疑問符です。彼のあくなき好奇心と探求心こそが、宇宙真理発見の原動力だったのかも知れません。

SCAS Sumika Chemical
Analysis Service

東京営業所	TEL 03-3257-7201	大分営業部・大分事業所	TEL 097-523-1181
大阪営業所	TEL 06-6202-1000	大阪事業所	TEL 06-6466-5247
名古屋営業所	TEL 052-201-4411	筑波事業所	TEL 029-864-4741
医薬事業本部 営業部(東京)	TEL 03-3257-7201	医薬事業本部 ファーマ事業所	TEL 06-6466-5246
医薬事業本部 営業部(大阪)	TEL 06-6202-1000	環境技術センター	TEL 0438-63-6176
千葉営業部・千葉事業所	TEL 0438-64-2281	医薬事業本部 バイオ技術センター	TEL 06-6466-5251
岡山営業部・岡山事業所	TEL 086-477-8103	SCAS SINGAPORE PTE LTD.	TEL 65-6899-3819
愛媛営業部・愛媛事業所	TEL 0897-32-3411		

本誌は再生紙を使用しています